

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム「里の家」 1階	評価実施年月日	平成20年6月25日、7月14日
評価実施構成員氏名	小林 未知子 吉田 基 中武 博之 外崎 時子 村上 道子 渡部 友宏 真鍋 美加 太田 拓也 高橋 正仁		
記録者氏名	高橋 正仁	記録年月日	平成20年7月22日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>今回、これまでの理念に「地域」という言葉を入れることができないか検討し、パンフレットにあるように追加した。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を意識するようになり、言葉遣い等にも気をつけ、理念に近づくよう心がけていると思う。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に対しては入居の際や入居後の生活について話す際に、地域の人たちには、運営推進会議等を通して、地域とのつながりの大切さや実際の生活ぶりを知ってもらうようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方たちとはきちんと挨拶を交わしているが、気軽に立ち寄るまでには至っていない。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入して、回覧板を回してもらったり、新年会に参加したりしている。また、「里の家」の花植えや避難訓練に協力してもらっている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>SOSネットワーク設置の要望(他のグループホーム・在宅介護を支える会と共同で提出)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を行うことが見直す機会となり、普段気付けないことに気付けたりする。</p>		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月間の出来事を報告すると同時に、参加者から意見をもらっている。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営上分からないことや介護認定等について、問い合わせることがある。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>1階ユニットでは、これまで対象となる入居者がいないため、管理者の研修報告等を聞くにとどまっている。(管理者は、裁判所に言ったり、弁護士に聞いたりしている。)</p>		
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法は、マニュアルの綴りにファイルしており、虐待に関する情報があつた時には職員に伝達し、自分たちはより丁寧な係わりをするよう心がけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関しては、入居相談の時からパンフレット等で説明を行い、入居時には書面にて説明を行い、その際に質問等を受けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃、入居者からの意見等を聞く姿勢で接しているが、運営に関しての意見は聞かれない。また、運営推進会議の場では改まって意見を聞く機会を作っているが、皆さん満足されているか、特になという意見。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>来訪時に最近の様子や体調について話し、急な受診がある場合には事前の連絡と受診後の連絡を行っている。預かり金については、毎月領収証と金銭出納長の写しを送っている。便りは、ズれることもあるが四半期に1度出すようにしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>何かあったら、いつでも言えるような雰囲気作りを心がけているが、改まって聞く機会としては、ケアプランを説明する際や運営推進会議の場がある。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニットの中での話し合いや全体会議で意見を出しあって事業内容を決めており、変更等が必要な場合も、みんなで話し合っている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>催し物のように予め予定のはっきりしていることに関しては、当日の勤務者を多くすることがある。また、急な受診が必要な場合等は、超過勤務で対応することもある。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が替わる場合は、入居者と職員の間がある程度築かれるまで、先輩職員と一緒に行動するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフ研修については、受けさせる・受けさせないは、管理者に任せているが、管理者・計画作成担当者の研修については、毎年受けさせている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者に任せている。 ※今年度は、近隣の市町村のグループホームから代表者等が集まり懇談する機会が設けられた。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特にやっていない。	○	一般職員と直接職場で話をする機会がないので、今後そのような環境づくりに取り組みたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	当法人は、人事考課を採用しているので、個人のモチベーションは高いと思われるが、それがレベルアップにつながっていけばと思う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に本人に会いに行き話を聞き、得た情報をスタッフに伝達する。入居当初は、特に意識して見守りや声かけを行うようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談に訪れた際に話を聞かせてもらい、さらに、本人に会うため家庭訪問した際にもいろいろ話を聞かせてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態によっては、グループホームに入居する前にリハビリを行った方が良いと思われるケースもあり、そのように話させてもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には、必ず本人に「里の家」へ来てもらい、一時を過ごし入居の了解を得た上で入居していただきたい旨を説明し、実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理等で分からないことを教えてもらっている。また、一緒に過ごす時間を作り、昔の話を聞かせてもらったり、一緒に楽しんだりしている。	○	記録の仕方としては、一つの場面を書く場合でも、その前後の様子やスタッフの働きかけ方も書くよう心がける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来た時には本人の様子等を話し、現在の状態を共有して係われるよう心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	「里の家」への来訪や外出・外泊は、自由に行ってもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚等は、自由に来ている。また、美容院は、市内であれば継続して行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の関係を理解し、座る位置に配慮したり、職員が同席するようになりしている。また、仲が悪い場合でも、その時の雰囲気良ければ一緒に過ごすようにしている。さらに、孤立しないように、職員が傍らにいたりするようにしたり、家事を一緒に行うようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	これまで、入院による退居の場合は、再度申し込みをしておいてもらうこともあったが、ここ1年間はそのようなことはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の過ごしたい場所等の意向を聞いたり、本人の様子を見ながら活動や休憩に誘うなどしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前・入居後に、本人や家族等から話を聞いている。また、家族とは、入居後に信頼関係が築かれてから聞かせてもらえる話もある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	バイタルチェックをはじめ、顔色や活気・飲食・排泄・言動等に関心を払い、少しの変化にも気付けるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の引継ぎやケアカンファレンスで本人の状態等を確認しあった上で、より適切なプランとなるよう話し合っ立案している。さらに、家族が来た時や、プランを説明する際に、意見や希望を聞かせてもらい、プランや日々の実践に反映させている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランは、基本的に3ヶ月に1度見直しているが、本人の状態に変化が見られ、早急にプランの見直しが必要になった場合は、随時変更・中止し、そのことを家族にも伝えている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子や出来事を記録し、朝夕の引継ぎを通して一人一人の状態や係わり方を共有するようにしている。しかし、記録に関しては、スタッフの動きが見えてこない内容になっていることもある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域の中では、短期の利用も可能な状態にはなっている。また、実際の利用には至っていないが、遠方からの来訪者等が本人の居室に宿泊することが可能であることや食事の提供もできることを話させてもらうことがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域との関係において、町内会の人たちには、「里の家」の避難訓練や花植えに協力してもらっています。のぞみ会というボランティアグループには、秋の冬囲い・春の取り外しをお願いしている。また、避難訓練は消防署に連絡し、総合訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ない ※権利擁護については、社協の担当者に問い合わせる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>できるだけ入居前の担当医に診てもらうようにし、変更が必要な場合は家族等の意向を聞いている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>神経・精神科を受診しており、薬の調整や中止等の相談もしている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携体制加算を請求しており、そのことに伴い名寄三愛病院との契約により、毎週看護師が来訪し、入居者の健康チェックや健康相談をしている。また、必要に応じ電話をかけ相談に乗ってもらうこともある。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居中に入院して戻ったケースは、特に相談せず10日で退院した。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居者の状態に変化が見られてきた場合は、早い時期に具体的な方向性について家族と話し合う機会を持つようにしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>「里の家」の1階ユニットでのできることをスタッフで話し合い、共通の意識で係わっている。また、医師には随時細かい報告を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際には、本人・家族、担当のケアマネやケースワーカーから情報をもらい、退居の際には「里の家」での様子を書面で情報提供し、住み替えによる負担が少しでも軽減されるよう心がけている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>声かけなどは、周囲の人に聞かれないよう、また言い方も丁寧になるよう気をつけている。記録等は、保管場所を決めて誰でも勝手に見られないよう注意している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉が伝わりにくい時は、表現を変えたり、言葉の量を少なくし、本人に理解・納得してもらえるよう心がけている。お茶の時間など、何を飲むか尋ねても「何でも良い。」という返事の返ってくることが多いが、できるだけ自分で決めてもらう機会を作るようにしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>皆で出かける時など、職員側の都合に合わせてもらうこともあるが、食事に要する時間や寝る時間など、それぞれのペースで生活している。また、居場所や家事への参加等も自分で判断してもらっている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節、気温・室温や本人の感じ方、及び出かける・出かけないなどを考え、本人と相談しながら調整する。美容院に行くのは、自分から訴える人もいるが、多くは職員が髪の伸び具合を見て判断している。店は、入居前に行っていた所に継続して行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備や後片付けはみんなで行い、それぞれが自分の仕事と意識しているように思う。食事の献立については、各人の好みや咀嚼・嚥下の状態に合わせて、その人の献立を変更することもある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	普段のお茶の時間は、季節や気温等を考えて提供している。家族の方のお土産を頂いたり、個人に持ってきた物は自由に飲食してもらっている。(但し、保存期間には注意している。)今回初めて喫煙する人が入居したが、喫煙できるように準備して迎えた。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分でトイレに行くのが難しくなっている人に関しては、リハビリパンツや尿取りパッドを使用してもトイレやポータブルトイレでの排泄が継続できるよう支援しており、その日の状態や仕草を見てトイレへ誘うようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の声かけをして本人が了解した上で、入浴してもらっている。ただ、入浴したがる人もあるので、開いた間隔を見ながら誘うようにしている。断られた時は、時間をおいてから再度声をかけたり、人が変わって誘うなどしている。また、便で汚した入浴も少なくない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれのペースで休憩・就寝している。また、ソファ等で居眠りしている時には、自室で休むことを勧める場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	台所仕事や掃除等、家事全般について入居者自ら行ってくれる人もいるし、職員が声かけて行ってもらう人もいる。夏場は、外でお茶を飲んだり、散歩や花を見たり、水をやったり、畑のことをやったり、外で楽しめるようにしている。	○	冬期間の過ごし方や室内での過ごし方など、楽しみや気晴らしになるようなことをもっと考えて行う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、預らせてもらった上で個人の財布を用意しておき、買い物に行く等の時に自分で持ってもらうようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外に出る機会を作るといことには、精神的な面で必要なばかりでなく、身体的にも人間関係的にも大事であり、散歩や買い物等に出かけるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	「里の家」の企画として、年に数回出かけることを行っている。家族との外出や外泊は自由に行ってもらっている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者から電話をかけたいという申し出はないが、「里の家」にお歳暮等が送られてきた時には、こちらからかけることがある。また、かかってきた電話では、自由に話をしてもらっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族から、特別会わせないでほしいという人があれば別だが、そのようなことがなければ自由に来てもらっている。曜日や時間の指定はない。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3ロックの中のスピーチロックについては、言葉遣いを意識するよう心がけているが、他の2つはない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間と1階ユニットの全員が外出する時以外は、玄関に鍵をかけず、常に入居者の所在を意識するようにはしているが、入居者が外に出たのに気づかなかったことが何度かあり、居間の出入りにセンサーを取り付けた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の部屋に入らせてもらう時は、必ずノックをしてから、入室している。夜間、職員は最低でも2回は各居室を見回るようにしており、また居間で書き物等をしながら、物音や動く気配に気づけるよう注意を払っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミでも、包丁でも必要に応じ使ってもらっており、使い終わったら片付けている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の精神・身体状況や飲んでいる薬の副作用が事故に結びつかないよう確認しあっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	今年度は、名寄三愛病院の協力を得、7月(実施済み)・8月に応急処置の勉強会を実施。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年、避難訓練を行っている。昨年は、町内会のみなさんに避難誘導をもらい、消防署員の方からも大変スムーズに避難でき、有効な方法との講評をもらった。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	各人の状態によっては、転倒や低栄養等の危険性があることを説明した上で、それでもできる限り自立した・本人の意思が尊重される生活となるような支援の方向性を理解してもらうようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	いつもと比べ、少しでも変だと思ったら、すぐに血圧・熱を計り、必要に応じ受診(時間外であれば救急外来)するようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬を漫然と服用することがないよう、本人の状態に合わせて受診の際に医師に相談しているが、職員全員が入居者全員の薬について、細かい副作用までの理解にはいたっていない。	○	入居者の有する疾患と飲んでいる薬及び副作用等を日常的に確認する機会を作る。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	なかなか便秘の解消には至らず、下剤を使っている人が多いが、水分摂取や体を動かすこと、食物繊維の多い食材を使うなどを心がけるようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きやうがい、義歯の清掃を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食欲が低下して摂取量が少なくなったり、残すことが目立つ場合は、早期に補食や栄養補助剤を提供するようにしている。水分をなかなか摂ってもらえない人については、本人の好む物や果物を用意したり、1日の中でもこまめに提供するなどしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いやうがいの励行と洗面所のタオルをこまめに交換し、流行の状況に応じて塩素系の消毒液で把手や手摺りを拭くことをしている。また、必要に応じ来訪者へ手洗いやうがいをお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、夕食後にまな板等を消毒液につける。食材は、1週間に3回買いに行くので、冷蔵庫に保管する物でも、最長でも3日目には処理している。また、調理前と後の食材・食物は2週間冷凍庫に保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏場には、花を飾っている。家族や知人は自由に入ってきている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	強い刺激となるような音や光はない。施設のような飾り付けはしていないが、普通に生活音が聞かれ、一般家庭で行う七夕やお正月の飾り等は行う。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	みなさん、ほとんどの人が居間の好きな場所で過ごすことが多く、思い思いに自室と居間を行き来している。仲が悪い人たちに関しては、職員が配慮することもある。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	危険物や貴重品以外、入居前に使っていた物を自由に持ち込んでもらっており、特に制限はしていない。ベッドにするか布団にするかも、自由に決めてもらっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	随時、換気や温度調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>建物の造りは、バリアフリーになっており、手摺りも取り付けられている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室やトイレの張り紙・タンスのそれぞれの引き出しに張り紙をし、自分の判断で行動できるように、迷っているような場合は職員がそれとなく促すようにしている。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花や畑のことをやったり、外でお茶を飲んだりする機会を作っている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)